



発行 徳島市かちどき橋1丁目41番地 TEL 088-622-8158 FAX 088-626-5411  
 URL : <http://www.toku-forest.com/> E-mail : [info@toku-forest.com](mailto:info@toku-forest.com)



剣山



Contents

新年のご挨拶（県森連・代表理事会長） ..... 2  
 平成28年年頭ご挨拶（全森連・代表理事会長） ..... 3  
 第28回全国森林組合大会 ..... 4  
 彩保育園における木育紙芝居(木育活動の実施について) ..... 5  
 平成27年度第1回森林組合役職員（監事）研修会の開催 ..... 6  
 徳島県知事・副知事へ表敬訪問 ..... 7  
 旭日双光章受章のお知らせ ..... 7



## 新年のご挨拶

徳島県森林組合連合会  
代表理事長 杉本直樹



新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本会運営につきまして、格段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、わが国の経済は、昨年6月に閣議決定されたいわゆる「骨太方針」による日本経済の再生に取り組んでいるところですが、実質GDP成長率がマイナス成長を余儀なくされるなど、景気回復は緩慢なものにとどまっております。特に消費税増税や円安に伴う食品等の値上げの影響から節約志向が定着し、個人消費が精彩を欠く結果となっております。

一方、設備投資は更新需要中心とはいえ比較的堅調であり、これに加え、原油安によるコスト低下等を背景に、企業収益は改善を維持していることから、所得、雇用環境が改善されるなど、引き続き緩やかな回復基調が見込まれています。

われわれ林業界においては、消費増税後の落ち込みはあるものの、全国的には大型製材工場の稼働、木質バイオマス発電事業の着手に向けての木材備蓄もあり、中・低質材を中心に国産材安定需要への期待は強い情勢にあります。

本県においては、今年度より平成17年度から実施してきた「林業プロジェクト」の成果を礎に、新たな林業施策であります「新次元林業プロジェクト」がスタートしました。

今回のプロジェクトでは、10年後の県産材生産量をプロジェクト開始前の約4倍となる60万 $\text{m}^3$ まで高めることを目指しており、川上・川中・川下ごとに様々な行動計画が立てられています。さらには、主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用を創出するとともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現が掲げられており、本会としましても、目標の達成に向け、系統を挙げて取り組むことが、経営基盤の強化や組合員への収益還元の増加に繋がると考えております。

また、平成23年度よりスタートしました森林組合系統運動「3ndステージ 国産材の利用拡大と森林・林業再生運動」につきましては、今年度が最終年度であることから、計画の達成に向け、会員一丸となり取り組むとともに、広域合併を推進することにより、森林組合の資本を集結し、経営基盤の拡充と組織体制の強化に取り組み、効率的な事業展開を図っていくことが、今後、森林組合が生き残っていく上で、非常に有効な手段であると考えております。

本会といたしましても、引き続き国・県・市町村・関係機関等のご指導とご支援を賜りながら、連合会の果たすべき機能と役割を十分発揮し、森林組合の発展に資することができるよう、組織・事業改革に取り組んで参る所存であります。

最後になりましたが、森林組合系統の益々の発展と、組合員の皆様方のご健勝を心から祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。



## 平成28年 年頭ご挨拶

全国森林組合連合会  
代表理事会長 佐藤 重芳



新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、日頃より森林組合活動への特段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、関東・東北地方豪雨による河川の氾濫や堤防の決壊等の被害が発生し、甚大な被害をもたらしました。被災地の皆様方には、心からお見舞い申し上げます。

森林の多面的機能の維持・発揮がいっそう求められている中で、日本の森林・林業の現状は依然として厳しい状況にあります。この中でも特に深刻な問題は、山林の健全な循環が壊れつつあるということです。これを顕著に現わしているのが、人工林の齢級構成です。成熟化が進む一方、若齢人工林が極端に少ないという歪な状態にあり、将来にわたる森林資源の造成を図っていかなければならない、非常に重要な局面にきております。

これを実現させるためには、境界の明確化や担い手の確保、苗木の安定供給、シカ等の獣害対策など解決しなければならない課題が山積していますが、我々が未来に対して責任をとるという観点から、これらの問題を今のうちから着実に解決していかなければならないと認識しています。

一方、一昨年には全国木材組合連合会と本会において、「“ウッドファースト社会”の実現に向けた行動宣言」を行いました。昨年は、その動きをさらに加速させるために、日本林業協会と全国木材組合連合会、日本林業経営者協会と本会の4団体により「日本の森林・山村の再生に向けた共同行動宣言」を行いました。森林資源の循環利用を進めるとともに、TPP交渉の大筋合意を受け林業の体質強化を図っていくためには、森林・林業・木材産業界が一体となり行動を起こしていくことが必要であるということをも再認識するものとなりました。

さらに、昨年10月28日には、全国から森林組合関係者が集結し、森山農林水産大臣をはじめ、多数の友好団体の方々のご臨席の下、「第28回全国森林組合大会」を開催いたしました。

本大会では、平成28年度より開始する次期系統運動『JForest 森林・林業・山村未来創造運動～次代へ森を活かして地域を創る～』を組織決定するとともに、「森林吸収源対策のための安定財源の確保と林業の成長産業化の推進に関する要望」を決議いたしました。本運動では、「効率的かつ安定的な林業経営による、組合員の経済的利益の向上」、「林業・関連産業の活性化による、地域社会の活力創造」、「森林の持つ多面的機能の高度発揮による、国民生活への貢献」の3つを目標としております。組合員のための森林組合として、協同の力を最大限に発揮できるよう、関係者各人が自身の運動として取り組み、系統の力を結集していくことが必要です。

昨年末には系統が長年にわたり要望してきた森林吸収源対策の安定財源の確保に一定の道筋がつけられたこともあり、林業の成長産業化、地方創生に向けた取組を進めてまいります。

また、3月11日には、東日本大震災と東電福島原発事故から5年の節目を迎えます。私たちは決して、この出来事を忘れてはなりません。そして、着実に復興への歩みを進めていくためにも、系統として引き続き邁進してまいります。

この新しい年が皆様方にとって佳き年になるよう心より祈念申し上げますとともに、森林組合系統が森林・林業・山村の明るい未来を創造できるよう、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年の挨拶といたします。

# JForest

## 第28回全国森林組合大会

平成27年10月28日(水)、東京都・日比谷公会堂において「第28回全国森林組合大会」が開催され、本県からは功労者表彰受賞者4名を含む13名が参加しました。

大会では、農林水産大臣表彰をはじめとする各表彰式が執り行われた後、議長に岡山県森林組合連合会の井出代表理事会長が選出され、提出2議案は満場一致で可決されました。

また、大会終了後には地元選出国會議員への陳情活動を行い、「森林吸収源対策のための安定財源の確保と林業の成長産業化の推進に関する要望書」を手渡しました。

なお、提出議案及び本県受賞者は下記のとおりとなっています。

<提出議案>

- (1) 次期森林組合系統運動方針の策定
- (2) 提 案
  - ・森林吸収源対策のための安全財源の確保
  - ・“ウッドファースト社会”の実現と林業の発展

<本県受賞者> ※順不同

全国森林組合連合会会長表彰

I 優良組合表彰 美馬森林組合

II 功労者表彰(永年勤続)

- |         |          |    |     |   |
|---------|----------|----|-----|---|
| ①森林組合職員 | 三好西部森林組合 | 梶元 | 貞二  | 氏 |
|         | 日和佐森林組合  | 坂本 | 裕史  | 氏 |
|         | 木頭森林組合   | 松田 | 隆史  | 氏 |
|         | 阿南市森林組合  | 湯浅 | 寿美  | 氏 |
| ②作業班員等  | 海部市森林組合  | 中島 | 辰夫  | 氏 |
|         | 阿波麻植森林組合 | 佐藤 | 征太郎 | 氏 |
|         | 美馬森林組合   | 尾形 | 明男  | 氏 |
|         | 美馬森林組合   | 尾形 | 敏治  | 氏 |
|         | 三好西部森林組合 | 池田 | 大介  | 氏 |
|         | 三好西部森林組合 | 竹采 | 有司  | 氏 |
|         | 三好西部森林組合 | 石川 | 忠男  | 氏 |
| ③連合会職員  | 本会総務指導課長 | 照原 | 大樹  |   |



議事の様子



表彰式の様子



佐藤会長あいさつ



森山農林水産大臣ご祝辞

# 彩保育園における木育紙芝居 ～木育活動の実施について～

主催：農林中央金庫・徳島県森林組合連合

平成27年11月19日（木）、勝浦郡上勝町の彩（いろどり）保育園において、木育活動を実施しました。主催者である農林中央金庫及び本会では、徳島県の豊かな森林で育った木を「見て」「触れて」「感じて」いただきたいとの思いのもと、毎年10月に開催される「とくしまWoodわくわく祭」において、幼稚園・保育園を対象として木製遊具を寄贈しており、大変ご好評をいただいております。

今回の木育活動は、平成26年に「木の家」を寄贈しました彩保育園を訪問し、園児30名に対して紙芝居を用いた木育教室や木育キットの贈呈を行いました。

園児達には、自然の大切さや徳島の木の素晴らしさを知ってもらう絶好の機会となりました。



農林中央金庫及び徳島県森林組合連合会は森林・林業や  
地域の皆様の発展のために、  
引き続き社会貢献事業に取り組んで参ります。

# 平成27年度第1回 森林組合役職員(監事)研修会の開催

開催日:平成27年12月8日(火)

会場:徳島県水産会館

平成27年12月8日に徳島県水産会館において、森林組合役職員の外、県担当職員も含め54名の参加を得、森林組合役職員(監事)研修会を開催しました。

まずはじめに、平成27年10月に開催された「第28回全国森林組合大会」において優良森林組合並びに功労者表彰を受賞された方に、表彰状の伝達式が行われました。被表彰者の方々は4ページに記載のとおりです。

午前中の研修会は、次世代プロジェクト推進室の工藤係長より、とくしま林業アカデミーの開設、那賀高等学校森林クリエイト科の設置等、県の取り組む「林業労働対策について」情報提供があり、引き続き「情報セキュリティ対策」について、農林中央金庫本店高松支店の梶原次長から、DVDを使い非常にわかりやすく研修を実施していただきました。

午後からは全国森林組合連合会監査部より桑山監査士をお招きし、森林組合監事研修を実施していただき、参加者からは熱心な質問も出るなど大変有意義な研修となりました。



## 《研修内容》

- 「林業労働対策について」(10:45~11:00)  
徳島県林業戦略課  
次世代プロジェクト推進室 係長 工藤 剛生 氏
- 「すぐにできる情報セキュリティ対策」(11:00~12:00)  
農林中央金庫 高松支店  
四国農林水産環境事業部 次長 梶原 直樹 氏
- 「森林組合監事監査について」(13:00~16:00)  
全国森林組合連合会  
監査部 監査士 桑山 公一 氏



工藤係長



梶原次長



桑山監査士

## 徳島県知事・副知事へ表敬訪問



平成28年1月4日（月）、徳島県森林組合連合会役員並びに県下の森林組合長（役員）が一堂に会し、飯泉嘉門徳島県知事を表敬訪問いたしました。

冒頭、杉本会長より、日頃の森林・林業施策への積極的な取り組みに対して感謝の言葉を述べるとともに、昨年スタートした「新次元林業プロジェクト」では、県産材の生産倍増はもとより、担い手育成については、「とくしま林業アカデミー」、「那賀高校森林クリエイト科」の創設など、様々な取組強化を打ち出していたことを受け、森林組合系統を挙げて、担い手の育成と、さらなる県産材の生産倍増に向け、一丸となり取り組んでいく旨の決意表明を行いました。

その後、徳島県林業の今後の展望などについて意見交換がなされ、引き続き取り組みを強化するとの心強いお言葉をいただきました。

また、知事訪問後、当連合会の元代表理事専務でもあります熊谷幸三副知事を表敬訪問し、知事同様、心強いお言葉をいただきました。

さらには、飯泉知事におかれましては、同日開催されました新年会へのご臨席をお願いしましたところ、公務ご多忙の中、快くご参加を賜り、知事を囲んでの大変有意義な新年会となりました。



飯泉徳島県知事



熊谷徳島県副知事



新年会の様子

## 旭日双光章受章のお知らせ

前県森連副会長（前美馬森林組合長）であり、元木屋平村長でもあられた西正二氏が、平成27年春の叙勲において、長年にわたる地方自治への貢献が認められ、旭日双光章を受章されました。

また、平成27年10月25日（日）、美馬市協町において、林業関係者をはじめ多数ご臨席の元、盛大な受章祝賀会が開催され、氏の功績が称えられました。



祝賀会の様子

**受章者の長年の功績に対し敬意を表するとともに、心からお祝い申し上げます。**

# 人は生まれながらに 「人」として生きる権利を持っています。



国際連合は、1948年（昭和23年）12月10日に「世界人権宣言」を採択し、その主旨は「すべての人間は、生まれながらにして自由であり尊厳と権利において平等である」という内容でした。

1966年（昭和41年）「国際人権規約」を採択、「人権の国際基準」を示し地域紛争や、人権侵害、難民問題が取り上げられる中で、世界が「人権」についてよく考えるようになりました。

1994年（平成6年）の総会において1995年から2004年までの10年間を「人権教育のための10年間」と決議しました。以後、各国において積極的に取り組むよう要求しています。

これを受けて、我々森林組合を含む全国農林漁業団体では「人権問題啓発推進事業」を開始し、継続してこの運動を展開しています。

「人権」は永遠のテーマです。わたしたちは人権について学び、かつて採択した「世界人権宣言」の主旨を次の世代へ引き継がなければなりません。

**私たちの身近にひそむ差別や偏見、  
人権侵害につながる人権課題に対する心構えを常に持ち続けましょう。**

**JForest**

**徳島県森林組合連合会**